

ゴールデンウィーク中の診療体制

日	月	火	水	木	金	土
						4月27日
						休診 (救急対応のみ)
4月28日	4月29日	4月30日	5月1日	5月2日	5月3日	5月4日
休診 (救急対応のみ)	通常診療 ※一部休診あり	休診 (救急対応のみ)	休診 (救急対応のみ)	通常診療 ※一部休診あり	休診 (救急対応のみ)	休診 (救急対応のみ)
5月5日	5月6日					
休診 (救急対応のみ)	休診 (救急対応のみ)					



紹介・予約のご案内

患者さんのご紹介にあたっては「紹介状(診療情報提供書)」と「受診科のご予約」をお願いいたします。また、紹介状には受診科の明記をお願いいたします。初診時に紹介状が無い場合は、診療費の他に選定療養費として1,338円(税込)が加算されます。

予約センター

予約専用電話:042-396-3190・3511

予約受付時間:月~金曜日 9時~19時・土曜日 9時~12時
※お急ぎや受診予約希望や、受診に関してご相談等の場合は、地域医療連携室までご連絡ください。
(受付時間:月~金曜日 9時~17時)

各種検査予約

代表電話番号:042-396-3811

放射線

代表番号より下記へご連絡願います。(受付時間:月~金曜日 9時~17時)
CT・一般X線検査:内線 2236 MRI検査:内線 2600
核医学検査:内線 2140 放射線治療:内線 2073・2169

内視鏡

予約センター又は地域医療連携室へご連絡のうえ、「内視鏡外来(金曜午後)」のご予約をお願いいたします。

たまほく

第122号

4 April



胃粘膜下腫瘍の手術について

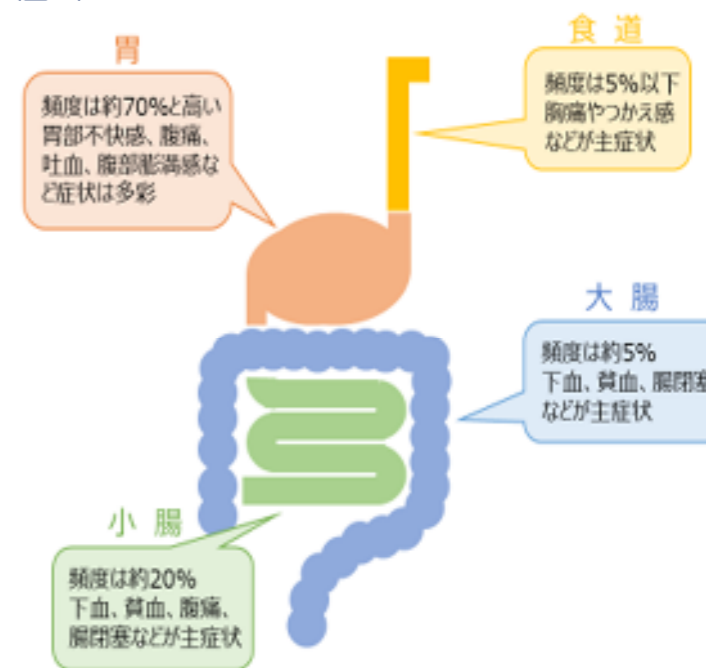
消化器外科医長 山田 卓司



【はじめに】当院消化器外科は既存の外科、消化器内科のサポートを受け、消化器疾患のより専門的な外科治療を行うことを目標とし、2017年に開設しました。専門的な外科治療として私たちが力を入れているもののひとつに、腹腔鏡を使った手術があります。今回は胃粘膜下腫瘍の手術についてご説明いたします。

【粘膜下腫瘍とGIST】粘膜下腫瘍とは粘膜下の組織に由来する腫瘍であり、その多くはGIST (Gastrointestinal Stromal Tumor) という疾患です。GISTの発生頻度は人口10万人あたり約2人であり、いわゆる稀少腫瘍とされています。GISTの発生する場所は胃が約70%と最も多く、小腸が約20%で、残りは食道や大腸です(図1)。GISTには特徴的な症状がないため、患者さんは腫瘍が大きくなるまで気づかないこともあります。日本では内視鏡による健診が進んだことで、比較的小さな段階で発見されるようになりました。GISTは腫瘍径が大きい場合や核分裂数が多い場合に、血行性転移、周囲臓器浸潤や腹膜播種などにより予後不良となることが知られています。GIST診療ガイドラインによる治療アルゴリズムでは、大きさが5cmを超える胃粘膜下腫瘍は手術の絶対適応となります。また核分裂数は病理で判定するため、大きさが2~5cmであっても精密検査や手術を行う必要があります。また大きさが2cm未満であっても増大傾向がある場合には、相対的

(図1)



手術適応となります(図2)。



←当院ホームページ 《「たまほく」に関するお問い合わせ》

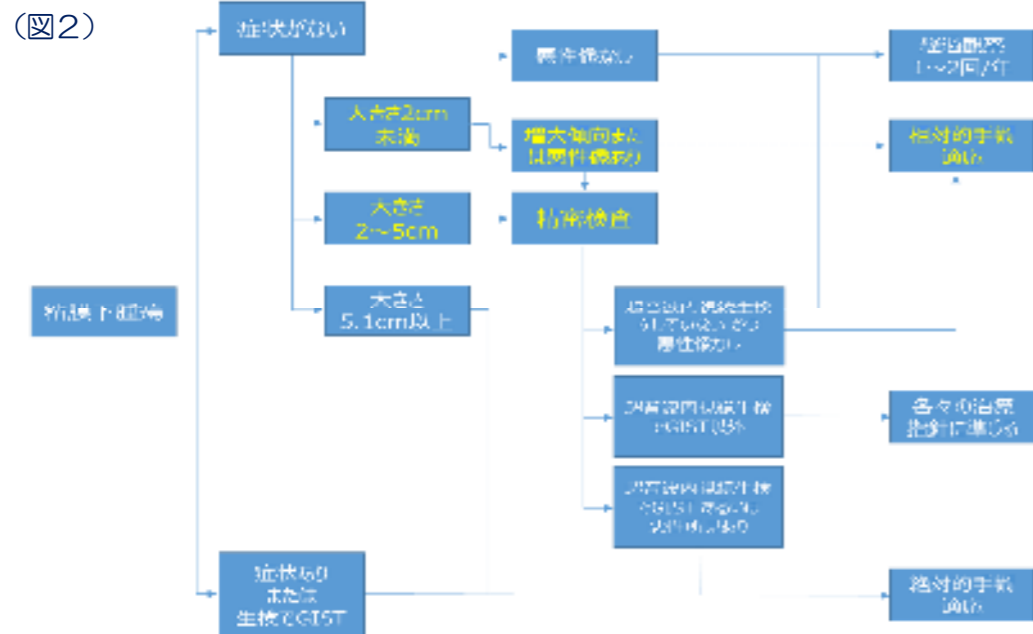
たまほく Twitter



地域医療連携室 042-396-3811 内線 2073

(次頁へ続く)

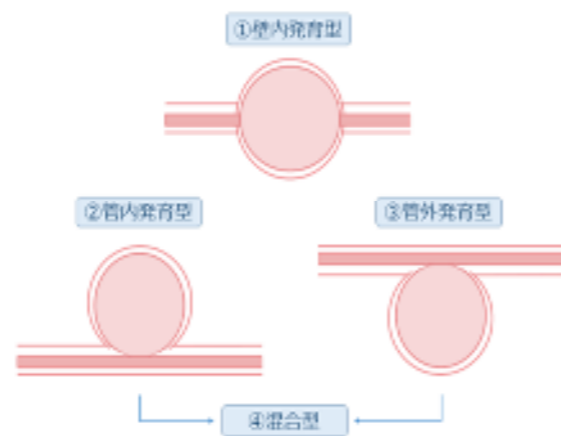
(前頁からの続き)



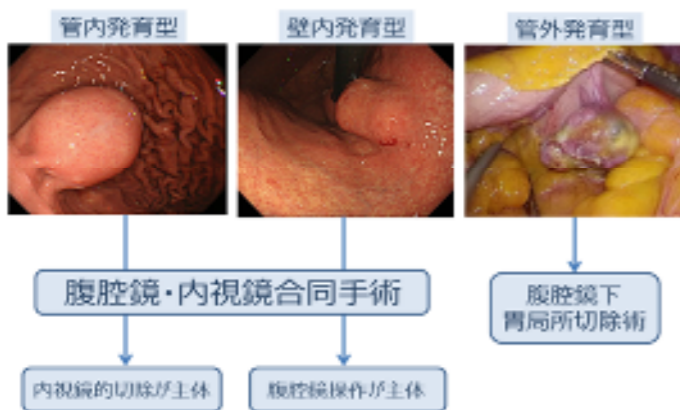
【術式について】GIST 治療の第一選択は手術です。癌と異なりリンパ節転移はまれなため、予防的郭清は行わず腫瘍を含む消化管局所切除が選択されます。大きさが2~5cmの腫瘍では腹腔鏡下手術が行われることが多く、とくに胃の粘膜下腫瘍に関しては腹腔鏡・内視鏡合同手術（LECS: Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery）が2014年から保険収載され、全国で行われるようになりました。当科は開設当初から消化器内科と密に連携してきたため速やかにLECSを導入することができ、独自の工夫を加え健常な胃壁を可及的に温存することでさらなる機能温存を目指しています。

胃粘膜下腫瘍は発育形式により4つに分類（図3）されますが、同じLECSであっても管内発育型のものでは内視鏡手技を中心に、壁内発育型のものでは腹腔鏡手技を中心に切除を行うことで、胃切除の範囲を最小化する工夫を行っています（図4）。

(図3) 粘膜下腫瘍の発育形式による分類



(図4) 当院における大きさが2~5cmの胃粘膜下腫瘍の手術方針



これらの術式は消化器外科手術の中でも専門性が高いため、当院では日本内視鏡外科学会技術認定医が手術を施行しております。

(次頁へ続く)

(前頁からの続き)

【まとめ】GISTは稀少腫瘍であるがために過去には十分な治療エビデンスがありませんでしたが、近年のデータ蓄積により、小さくても手術が必要な病変が存在することがわかってきています。また時代の要請で、消化器外科領域では単に病変を切除するだけでなく、術後の患者さんのQOLを重視することも求められています。当院では消化器内科の協力を得て、胃GISTの最新治療であるLECSを行える体制ができております。内視鏡検査で胃に粘膜下腫瘍を認めた場合どのように対応したらよいのか・・・お困りの時はどうぞお気軽にご紹介ください。

医師採用・退職情報

2019年4月 採用医師

診療科	採用医師名
内分泌・代謝内科	立石 祐子(非常勤)
腎臓内科	大下 格
血液内科	梅田 美妃、栗本 美和(非常勤)
リウマチ膠原病科	永井 佳樹(非常勤)、荻島 博(非常勤)、頼母木 直樹(非常勤)
小児科	清水 歩美
消化器外科	伊藤 俊一
脳神経外科	八ツ繁 寛(非常勤)、唐鎌 淳(非常勤)
整形外科	公平 勇二
歯科口腔外科	日高 真吾(非常勤)
麻酔科	山本 衛
シニアレジデント	島本 遥、川間 健太郎、本間 丈博
ジュニアレジデント	中村 春野、根岸 智園、萬木 文佳、小山 友裕、岩田 匡祐
ジュニアレジデント(歯科)	萩原 明日美

よろしく
お願いします

2019.3.31付 退職

診療科	医師名
内分泌・代謝内科	佐藤 香織、山本 かをり
循環器内科	畑田 英彦
腎臓内科	鈴切 恒平
呼吸器内科	倉島 篤行、宮本 牧
血液内科	長内 聡子
リウマチ膠原病科	大島 美穂、三好 雄二、上月 友寛
小児科	曾根田 京子、蟹江 信宏、小島 奈々
消化器外科	小竹 将、巾 匡洋
整形外科	池田 達宣
泌尿器科	野田 治久
婦人科	池田 さやか
歯科口腔外科	五月女 寛明
ジュニアレジデント	寺村 一成、染谷 知恵
ジュニアレジデント(歯科)	丸田 上

ありがとう
ございました

